

新城市民病院の改善取組及び成果

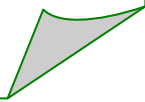
(平成18年度～20年度)



新城市民病院では、医師不足による医療機能の低下、経営の悪化を少しでも改善するため平成18年度からさまざまな取組みを進めてきました。

そこで、これまでの取組みの内容及び成果について報告します。

平成21年10月



改善プラン及び主な会議

経営改善アクションプラン作成（平成18年5月）

5つのテーマを掲げ、経営改善に努めた。

- (1) 常勤医師確保と医師の定着化
- (2) 病病・病診連携の強化
- (3) 病院環境の魅力向上
- (4) 組織改革と人材育成
- (5) 経営の効率化と住民理解の促進

改善に向けての主な会議（平成18年度～平成20年度）

(1) 東三河北部医療圏医療連携協議会（平成18年度）

委員：新城医師会代表者、北設楽郡医師会代表者、東栄病院長、新城市民病院長、新城市民病院医局長、新城市作手診療所長、豊橋医師会代表者、豊川医師会代表者、愛知県医師会代表者

会議：4回開催

内容：東三河北部医療圏における救急医療体制に関することなどについて協議

《成果》 関係医療機関のご協力による休日夜間診療所の開設

(2) 新城市民病院支援委員会（平成18年度）

委員：市議会代表者、区長会代表者、学識経験者、市民病院ボランティア患者（公募）

会議：4回開催

内容：経営改善アクションプラン、地域医療のあり方等について協議

《成果》 提言により、ドクターマップの作成、「病院だより」の発行、「ほのか診察室」の連載、出前健康講座の開催等を実施

(3) 新城市民病院改革プラン策定会議（平成20年度）

委員：市長、市議会代表、医師会長、歯科医師会長、新城設楽山村振興事務所長、新城保健所長、院長、総務部長、企画部長、健康医療部長、消防長、経営管理部長

会議：4回開催

内容：改革プランの策定に関する協議

《成果》 新城市民病院改革プランの作成

改革プラン作成（平成21年3月）

平成21年度～平成23年度の3カ年の計画を立て改善を進める。

- (1) 新城市民病院の果たすべき役割
- (2) 経営の効率化
- (3) 収支計画
- (4) 再編・ネットワーク化
- (5) 経営形態の見直し
- (6) 実施状況の点検・評価・公表

改善取組及び成果

1 医師確保

(1) 取組状況

ア 医師^{しょうへい}招聘（礼を尽くして人を招くこと）活動（平成18年度～平成20年度）

- ① 関連大学 63回
- ② 関連医療機関 16回
- ③ 県・県医師会 16回

市長、院長等による医師招聘活動を積極的に進めています。

イ 募集広告・紹介業の活用

- ① インターネットによる民間医師募集サイト登録（広告、メールによるアプローチ）
- ② 全国自治体病院協議会医師募集サイト、県医師会ドクターバンク登録

全国どこからでも24時間、医師募集情報をキャッチできるように努めています。

ウ ダイレクトメール

- ① 地元出身医師へ発送（114件）⇒ 問合せ(2件)
- ② 東海4県に住所を有する医師へ発送（1258件）⇒ 問合せ(0件)

エ 処遇改善

- ① 手当の新設、増額
- ② 医師住宅家賃の負担軽減

医師の待遇改善を推進したことで、平成20年度は県下公立病院中2番目の給与となりました。

オ 高度医療器械等の整備

- ① マルチスライス64列CT(平成19年10月)※1、MRI(平成21年3月)※2
 - ② オーダリングシステム(平成19年10月)※3
- ※1 X線を使って身体の断面を撮影する機器
※2 磁気を使って体内を縦横に撮影する機器
※3 検査、処方などに係る情報伝達システム

最新機器等を整備することで医療環境の魅力と質の向上に努めました。

カ 女性医師育児支援

- ① 育児短時間勤務制度の導入(平成19年4月)

子育て中の女性医師を支援する勤務制度を導入しました。

キ その他

- ① 当院に在職した医師へのアプローチ

《成果》

大学医局人事以外による採用（常勤医師）

- ◇ 平成18年度（4名）
産婦人科医師1名、循環器科医師1名、消化器科・外科医師1名
神経内科医師1名
- ◇ 平成19年度（4名）
総合内科医師3名、整形外科医師1名
- ◇ 平成20年度（1名）
呼吸器内科医師1名
- ◇ 平成21年度（1名）
総合内科医師1名

新城・北設地域の皆様の医師確保署名活動が大きな力となりました。

(2) 医師数の推移 (人)

4月1日現在

項目	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
内科	8 (2.8)	4 (2.0)	5 (1.1)	5 (1.4)	5 (1.8)
精神科	1 (0.0)	0 (0.1)	—	—	—
小児科	2 (0.0)	2 (0.0)	1 (0.0)	1 (0.0)	1 (0.0)
外科	5 (0.0)	4 (0.1)	5 (0.2)	5 (0.3)	5 (0.1)
整形外科	3 (0.0)	3 (0.0)	1 (0.1)	1 (0.3)	1 (0.4)
脳神経外科	1 (0.1)	1 (0.1)	1 (0.1)	1 (0.1)	1 (0.1)
皮膚科	1 (0.2)	1 (0.1)	1 (0.1)	1 (0.0)	1 (0.0)
泌尿器科	3 (0.0)	3 (0.0)	3 (0.1)	3 (0.1)	3 (0.0)
産婦人科	2 (0.8)	—	1 (0.0)	1 (0.0)	1 (0.0)
眼科	1 (0.2)	1 (0.0)	0 (0.6)	—	—
耳鼻科	1 (0.4)	1 (0.4)	0 (0.4)	1 (0.2)	0 (0.6)
放射線科	1 (0.1)	1 (0.2)	1 (0.2)	1 (0.0)	1 (0.0)
歯科	3 (0.0)	3 (0.1)	2 (0.1)	1 (0.0)	1 (0.0)
合計	32 (4.6)	24 (3.1)	21 (3.0)	21 (2.4)	20 (3.0)

※ () 内の数字は非常勤医師の常勤換算数

(3) 内科医師内訳 (再掲) (人)

4月1日現在

項目	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
総合内科	2 (1.6)	1 (1.1)	3 (0.6)	2 (0.7)	2 (0.8)
神経内科	2 (0.0)	2 (0.0)	2 (0.0)	2 (0.0)	2 (0.0)
循環器科	1 (0.6)	1 (0.7)	0 (0.5)	0 (0.7)	0 (0.8)
呼吸器科	1 (0.4)	0 (0.2)	—	1 (0.0)	1 (0.2)
消化器科	2 (0.2)	—	—	—	—
合計	8 (2.8)	4 (2.0)	5 (1.1)	5 (1.4)	5 (1.8)

※ () 内の数字は非常勤医師の常勤換算数

17年度から18年度にかけての医師激減に一定の歯止めをかけることができました。
今後も引き続き医師確保に一層の力を注ぎます。

2 医療機能、医療環境の充実

(1) 専門外来の新設

市民のニーズに応え、より専門性の高い医療を提供するため専門外来を開設した。

項目	診療科
18年度	◇ 更年期外来（6月） ◇ 血管外来（9月） ◇ 乳腺外来（11月）
19年度	◇ 総合内科（4月） ◇ 肝臓外来（4月） ◇ 肛門外来（7月） ◇ ものわすれ外来（2月）
20年度	◇ 足外来（5月） ◇ 禁煙外来（9月） ◇ 睡眠時無呼吸外来（9月）

市民の皆さんに分かりやすい外来診察に心がけています。

在職する医師の専門性を活かし、地域の実情に合った医療の提供をしている。

(2) 訪問リハビリ（件）

高齢化率が高いこの地域において、地域的にリハビリの訪問サービスが少ないため、在宅でのリハビリ支援を強化した。

項目	年間実施件数
18年度	7
19年度	560
20年度	960

18年度にスタートした訪問リハビリ。医師の指導の元、医療技師などの力を活かした診療活動を行うことで、地域医療貢献に努めています。

通院困難などの患者さんに住み慣れた環境でのリハビリを提供している。

(3) 放射線検査（件）

CT、MRIを最新機種に更新するなど検査時間の短縮、診断精度の向上に努めている。

項目	17年度	18年度	19年度	20年度	比率(対17)%
一般撮影	21,780	12,030	16,681	16,574	76.1
乳房撮影	179	200	211	258	144.1
超音波(腹部)	153	189	477	454	296.7
CT	6,382	3,962	5,519	6,321	99.0
MRI	3,888	3,445	4,403	3,941	101.4

女性技師の採用により乳房撮影の件数が伸びている。

最新医療機器に更新したことで、検査精度が向上し、疾患の早期発見につながっています。
また、地域開業医の皆様から、放射線検査の紹介依頼（5頁参照）が増えており、地域医療にも貢献しています。

健診センター配属職員を専任にし、1日の健診受入れ件数を増やしました。今後も予防医療の充実に努めています。

(4) 健診 (件)

オプションの検査項目を拡充するとともに、市内の企業を訪問し健康診断の大切さを説明するなどPR活動を強化している。

項目	17年度	18年度	19年度	20年度	比率(対17)%
人間ドック	1,087	1,578	2,046	2,245	206.5
健康診断	918	1,189	1,565	1,900	207.0
健診契約企業数	146	170	205	249	170.5

地元企業と協力して地域住民の方の生活習慣病の予防と健康増進を推進しており、検査件数及び健診契約企業数が伸びている。

(5) 内視鏡検査 (件)

患者さんの負担軽減を図るため、平成19年度に経鼻内視鏡を導入した。

項目	17年度	18年度	19年度	20年度	比率(対17)%
経口内視鏡	1,152	753	335	198	145.7
経鼻内視鏡	0	0	1,570	1,938	
下部内視鏡	314	318	537	575	183.1
合計	1,466	1,071	2,442	2,711	184.9

消化器科・外科の体制充実及び経鼻内視鏡の導入により検査件数が伸びている。

(6) 開業医からの検査受入 (件)

CT、MRIなどの高度医療器械を整備し、地域の開業医からの検査依頼を積極的に受入れている。(平成18年度から受入開始)

項目		18年度	19年度	20年度
放射線課	超音波	0	17	12
	CT	190	391	472
	MRI	420	823	742
	RI ※1	3	18	13
	合計	613	1,249	1,239
臨床検査課	骨密度	5	10	6
	肺機能	0	2	1
	サーモグラフィー	0	2	0
	心エコー	0	12	12
	ホルター心電計	0	6	6
	神経伝達速度	0	6	3
	脳波	1	1	1
	頸動脈エコー	0	0	2
	合計	6	39	31

開業医の患者様の検査依頼を積極的に受け入れています。この地域の検査センター的機能を担えるように努めています。

※1 放射線を放出する医薬品を使って体内の状態を調べる機器
開業医との連携を進めることにより検査受入件数が伸びている。

(7) 医療看護相談（件）

患者さんやその家族に対して、入院生活及び退院後の家庭における療養の仕方等の困りごとや不安を解消するため相談体制の充実に努めている。

項目	17年度	18年度	19年度	20年度	比率(対17)%
助産師、看護師	1,124	930	170	1,669	148.5
メディカルソーシャルワーカー	870	1,375	955	1,528	175.6
関係機関との連携	1,109	1,410	1,369	3,167	285.6
合計	3,103	3,715	2,494	6,364	205.1

患者さんにとって相談しやすい環境を整備するためメディカルソーシャルワーカーを配置するなど相談体制を充実することにより相談件数が伸びている。

入院治療等を必要とする開業医からの紹介患者様、及び当院からの転院など、治療、療養上の様々な困り事、悩み事について、専門知識を活かした助言、指導を行っています。

(8) 施設の整備

診療待ち時間の短縮、入院療養環境の改善等を図るため施設整備を実施した。

項目	事業内容
18年度	◇ 外来診察室の改修
19年度	◇ オーダリングシステムの導入 ◇ 外来検査室の設置、外来診察室の改修 ◇ 人工透析センターの改修（ベッド19床⇒25床）
20年度	◇ 特別病室の改修



患者様や御家族の方などに少しでも安らぎを感じていただけるよう「和」のスペースを取り入れた特別病室を用意しました

(10) 地域連携

地域医療連携室を設置し、開業医との連携強化を進めている。

地域の開業医の先生方と協力、連携することで地域医療を守っています。

ア 紹介（開業医 ⇒ 市民病院）

項目	17年度		18年度		19年度		20年度	
	件数	紹介率(%)	件数	紹介率(%)	件数	紹介率(%)	件数	紹介率(%)
内科	714	30.1	544	85.5	912	30.1	1,000	37.4
外科・消化器科	211	47.9	628	66.0	944	42.6	1,070	42.8
耳鼻咽喉科	199	9.1	321	11.9	295	9.5	262	9.2
眼科	50	7.5	70	10.9	47	6.6	—	—
婦人科	134	22.9	78	13.5	125	10.2	128	9.7
整形外科	448	31.2	361	47.7	414	16.4	383	15.3
皮膚科	138	15.8	194	18.2	237	12.9	173	10.6
脳神経外科	361	53.4	441	60.2	431	44.0	357	40.4
小児科	191	16.6	76	5.3	69	3.9	69	4.7
歯科口腔外科	228	19.2	250	22.1	267	20.5	262	22.9
泌尿器科	211	37.4	342	44.5	414	33.7	429	35.5
精神科	23	42.5	10	52.6	—	—	—	—
放射線科	—	—	609	100.0	1,253	100.0	1,224	100.0
合計	2,908	19.9	3,924	31.9	5,408	25.5	5,357	27.8

イ 逆紹介（市民病院 ⇒ 開業医）

項目	19年度		20年度	
	件数	逆紹介率(%)	件数	逆紹介率(%)
内科	606	36.5	1,722	100.1
外科・消化器科	177	14.3	1,165	83.1
耳鼻咽喉科	92	4.3	320	16.0
眼科	319	89.4	—	—
婦人科	75	12.2	225	33.7
整形外科	298	19.7	991	66.3
皮膚科	39	3.9	178	17.2
脳神経外科	196	30.3	453	62.5
小児科	64	4.6	117	9.1
歯科口腔外科	78	7.9	171	15.6
泌尿器科	113	16.4	494	64.2
精神科	—	—	—	—
放射線科	1,155	136.4	1,132	117.7
合計	3,212	24.6	6,968	53.0

紹介率・逆紹介率の算定方法

◇紹介率算定式

$$\frac{\text{紹介患者数} + \text{救急患者数}}{\text{初診患者数}} \times 100$$

◇逆紹介率算定式

$$\frac{\text{逆紹介患者数}}{\text{初診患者数}} \times 100$$

地域の開業医との接点となる地域医療連携室の開設により、紹介率が19.9%から27.8%に、逆紹介率が24.6%から53.0%に伸びている。

3 各種活動

(1) 広報活動

ア 病院だよりの発行

(平成18年9月～)

病院のことをより多くの方に知っていただけるよう医療をはじめとするさまざまな情報を発信するため毎月発行している。

配布方法

議会、医師会、医療関係機関
患者用、市民用（市役所等）

配布部数

300部



イ あなたの街のお医者さんマップの作成 (平成19年5月)

「緊急当番医の場所がどこにあるか分からない」という市民の方のご意見にお応えするため作成した。

配布部数

全戸配布 15,560部
その他関係機関 1,000部



ウ ほのか診察室の連載

(平成19年7月～)

病気（症状、対処法など）についての解説や病院についての情報を発信することにより、少しでも市民の皆さんの健康増進に役立てるよう努めている。



エ 市民病院ホームページリニューアル

(平成20年3月)

市民病院の医療情報等を、これまで以上に迅速かつ分かりやすく提供するためホームページをリニューアルした。

オ 情報コーナー設置

(平成19年7月)

毎月の診療表や各科のチラシなどの病院情報を提供するため市役所、鳳来支所、作手支所に市民病院の情報コーナーを設置した。

(2) 院内活動

ア 院内発表会の実施（平成18年度～）

病院改善に対する意識の高揚や知識・技術を共有することにより、病院全体としての改善の動きに変え、病院の活性化を図る。

実績 毎年1回実施



イ 民間病院への職員派遣研修制度の導入（平成19年度～）

職員を民間企業等に派遣し、企業等における実践を体験させることにより、職員の視野の拡大、資質及び意欲の向上を図り、病院の活性化と効率的な運営を図る。

実績 看護師2名派遣

ウ 資格取得助成制度の導入（平成19年度～）

必要な資格、知識及び技術の習得を図ろうと研修に参加する職員に対して助成を行い、自己啓発を奨励し、職員の資質の向上を図ることにより、市民病院の活性化と医療の質の向上を図る。

実績 認定看護師（平成21年度予定）

エ 人事評価制度の導入（平成20年度～）

職員の能力開発など人材育成をすすめるとともに、努力したものが報われる人事評価制度を導入し、組織全体の活性化及び経営の効率化を図る。

実績 評価結果を勤奨手当（6月、12月）に反映

オ 患者満足度調査の実施（平成20年9月～10月）

より快適な療養環境で治療を受けていただくよう、入院及び外来患者さんのご意見を調査し業務改善を進めることを目的に実施した。

カ こころの交流会の開催（平成20年11月）

市民の皆さんに市民病院について、知っていただき親しみを感じていただくため健康相談、体験（手術等）コーナー等を実施した。

大好評だった「手術体験コーナー」。普段は入れない手術室で、医師の指導を受けながら子供たちが手術模擬体験をしました。



(3) 院外活動

ア 医師による講演会の開催

◇市民医学講座

開催日 平成18年11月10日
テーマ「血管と健康について 血管外科の臨床：私の経験から」
会場 新城文化会館 小ホール
講師 綿引 洋一 院長
参加者 約280人

好評だった中学での講演会。
将来、医師になってこの地域の医療を担ってくれることを期待しています。

◇社会人と語る会等

開催日 平成19年6月5日ほか2回
テーマ「未来の医師募集」等
会場 新城中学校、東郷中学校
講師 中村 一平 総合内科医師



◇市民公開講座（共催 新城医師会・アステラス製薬）への参加

開催日 平成21年10月24日予定
テーマ「内科、外科、泌尿器科の一般的な医学講座」
会場 新城文化会館 小ホール
講師 内科 祖父江 文男 医療部長
外科 金子 猛 診療部長
泌尿器科 鈴木 明彦 副院長
高田 三喜 診療部長

中学校の講演では、「将来医師になりたくなった」との意見もあり生徒及び先生から好評を得ている。

イ 出前健康講座の開催

行政区や老人クラブ等の各種団体から依頼を受け出前健康講座を開催している。

実績 平成18年度 0件
平成19年度 22件
平成20年度 27件

参加者から「分かりやすい」「非常にためになった」など好評で、一度依頼のあった団体から再度依頼があるケースが増えている。



院長を始め、医師や看護師などが各地域に出向き、「健康講座」「医学講座」を開催し、参加者の皆さんと直接交流をするの中で、健康・医療への理解を深めていただいています。

ウ まちの保健室の開催

各地区、各団体が開催する運動会やバレーボール大会等に参加し、怪我の応急処置や健康相談を行っている。

実績	平成 18 年度	7 件
	平成 19 年度	17 件
	平成 20 年度	20 件



地域の皆さんと直接ふれあい、身近な健康・医療相談を行っています。
見かけたときはお気軽に声をかけてください。

各種団体からの依頼件数が増加している。

エ 子育て支援活動の実施

小児科医師、看護師等と子育てに関する話をしながら親子のふれあいの場所を提供している。

実績	平成 18 年度	1 件
	平成 19 年度	2 件
	平成 20 年度	2 件

参加者の笑顔がスタッフの励み、地域の子育て家族への応援につながっています。



参加者から「楽しく参加できた」「次回もぜひ参加したい」などたいへん好評である。

4 経営状況

(1) 収 支

ア 収入 (A)

単位：百万円

項 目	17年度	18年度	19年度	20年度	比率(対17)%
入院収入	2,205	1,352	1,468	1,376	62.4
外来収入	1,611	1,143	1,216	1,175	73.0
その他医業収益	361	381	443	491	136.0
その他	475	331	305	453	95.4
合計	4,652	3,207	3,432	3,495	75.1

イ 支出 (B)

単位：百万円

項 目	17年度	18年度	19年度	20年度	比率(対17)%
給与費	2,692	2,231	2,278	2,052	76.2
材料費	1,116	744	687	701	62.8
経費	817	659	669	664	81.3
医業外費用	259	245	233	210	81.1
その他	491	459	416	415	84.5
合計	5,375	4,338	4,283	4,042	75.2

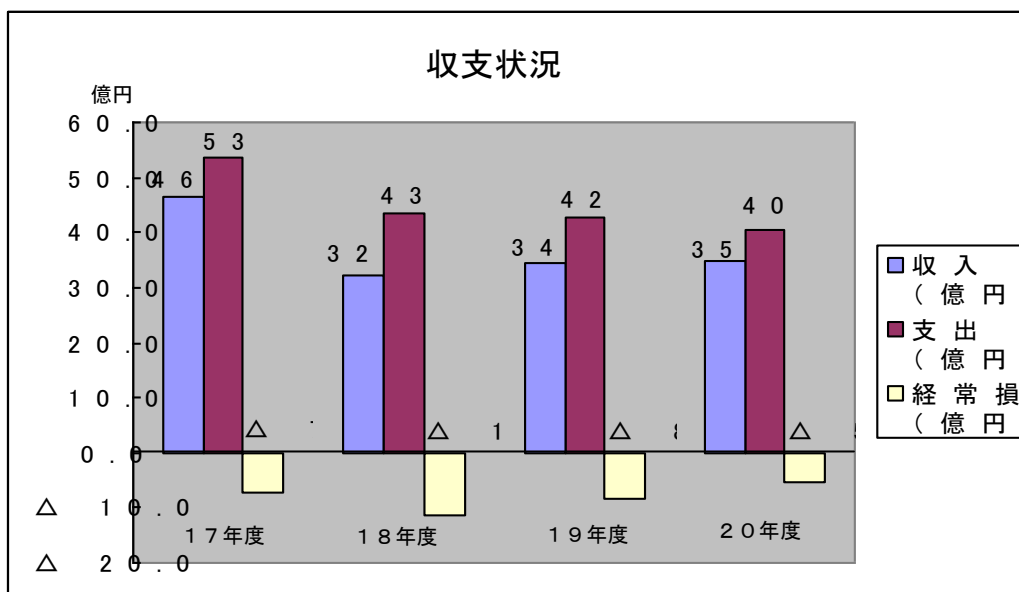
ウ 収支 (A-B)

単位：百万円

項 目	17年度	18年度	19年度	20年度	比率(対17)%
経常損益	△723	△1,131	△851	△547	75.7

徐々にではありますが、確実に収支経営改善が進んでいます。公設公営を基本に更なる改善に努めます。

エ グラフ



(2) 患者数の推移

ア 入院（1日当りの患者数）

単位：人

項目	17年度	18年度	19年度	20年度
内科	48.3	24.6	43.8	41.6
精神科	-	-	-	-
小児科	5.3	0.2	0.1	0.1
消化器科・外科	41.3	26.6	25.1	23.9
整形外科	40.6	12.7	11.2	13.8
脳神経外科	11.4	11.8	8.7	8.5
皮膚科	1.8	1.8	1.2	1.5
泌尿器科	19.3	21.2	22.1	21.6
産婦人科	9.9	0.4	0.6	0.7
眼科	1.6	3.0	0.4	-
耳鼻いんこう科	2.1	1.6	0.2	-
放射線科	-	-	-	-
歯科口腔外科	1.5	1.6	1.3	1.5
合計	183.1	105.5	114.7	113.2

イ 外来（1日当りの患者数）

単位：人

項目	17年度	18年度	19年度	20年度
内科	205.4	83.7	75.8	81.8
精神科	20.5	1.9	-	-
小児科	40.7	28.1	30.6	34.3
消化器科・外科	26.6	33.0	45.3	48.3
整形外科	104.5	44.7	51.9	71.8
脳神経外科	30.5	24.5	22.0	20.7
皮膚科	46.4	40.1	40.0	45.4
泌尿器科	54.0	52.5	53.6	54.3
産婦人科	37.4	9.2	13.8	13.4
眼科	50.8	55.7	37.3	-
耳鼻いんこう科	50.0	47.1	36.3	31.8
放射線科	0.0	2.5	5.1	5.1
歯科口腔外科	31.0	29.1	24.4	21.2
合計	697.8	452.1	436.1	428.1

医師減少に歯止めがかかり、入院・外来患者さんへの安定的な診療が回復しつつあります。

新たな医師確保と併行し、現有のスタッフでできることを常に探求し、地域医療の確保に努めます

(3) 経費削減の取組

ア 民間人の登用

民間的経営手法を取り入れ、経費の削減及び職員の意識改革を図るため平成18年3月から民間人を登用した。

《効果》 民間的経営手法の導入により薬品費等のコスト削減が図れた。さらに、組織を診療部制に変え運営部長、運営課長を配置し、責任を明確化したことで職員のコスト意識の高揚が図れた。

イ SPDの導入

不良在庫の撤廃や貯蔵品の抑制等の在庫管理の徹底及び購入価格や仕入れ方法の見直しにより薬品費、診療材料費の抑制を図った。

《効果》	(平成17年度)		(平成20年度)
薬品費	7億9千3百万円	⇒	5億3千7百万円
診療材料費	2億8千万円	⇒	1億3千9百万円

ウ 公的資金補償金免除繰上償還(平成19年度～21年度)

特例措置により企業債の繰上償還が認められたため高金利企業債の借り換えにより金利負担の軽減を図った。

《効果》 企業債償還金利息 1億1千5百万円削減見込み

エ 人件費の抑制

- ① 業務の合理化及び人事配置の適正化により退職者の補充を抑制した。
- ② 業務の効率化による時間外勤務手当の抑制及び手当の適性支給を図った。
〔地域手当の廃止(医師を除く):(給料+管理職手当+扶養手当)の10%(平成17年度)⇒0%(平成20年度～)〕

4月1日現在

項目	17年度	18年度	19年度	20年度
職員数(人)	313	273	244	225

《効果》	(平成17年度)		(平成20年度)
給料	11億5千9百万円	⇒	8億7千8百万円
手当	9億6千万円	⇒	6億7千8百万円

オ 委託料の削減

契約内容や契約方法を精査するとともに、削減目標を定め契約金額の適正化を図った。

《効果》	(平成17年度)		(平成20年度)
委託料	4億7千6百万円	⇒	3億3千9百万円

(4) 年度別経営指標

項 目	17年度	18年度	19年度	20年度	区分 ※3
経常収支比率(%)	86.2	73.9	79.7	86.3	A
医業収支比率(%)	82.4	71.1	78.5	80.5	A
医師1人1日当たり診療収入(千円)	296	270	305	308	A
看護師1人1日当たり診療収入(千円)	47	35	43	46	A
患者1人1日当たり医師給与費(円)	3,296	4,319	4,393	4,423	B
患者1人1日当たり看護師給与費(円)	8,499	12,125	10,302	9,471	B
患者1人1日当たり職員給与費(円)	3,889	5,340	5,236	4,839	B
患者1人1日当たり薬品費(円)	4,518	4,897	4,580	4,460	B
患者1人1日当たり経費(円)	5,806	8,402	8,605	7,659	B
病床利用率(%) ※1	64.3	41.4	45.0	44.4	A
稼動病床利用率(%) ※2	64.3	64.7	65.5	64.7	A
平均在院日数(日)	19.5	17.1	16.0	17.8	B
医師1人1日当たり患者数(人)	10.5	9.0	9.6	10.0	A
看護師1人1日当たり患者数(人)	1.6	1.2	1.4	1.5	A
人件費比率(%)	64.5	77.7	69.9	64.3	B

※1【病床数】平成17年度:271床、平成18年度以降:255床

※2【稼動病床数】平成17年度:271床、平成18年度:163床、平成19年度以降:175床

※3【区分の評価方法】

A……数値が大きいほど良い項目

B……数値が小さいほど良い項目

全体的に平成17年度の経営指標数値まで回復しつつあります。
 17年度の指標を上回る項目も出始めました。医師数は減りましたがスタッフの努力により「医師1人1日当たり診療収入」が伸びています。
 また、「平均在院日数」も短縮傾向にあり、外科、泌尿器科等を中心に急性期医療への取り組みが進んできているといえます。
 「病床利用率」や「人件費率」など、まだまだ改善に取り組む課題は多いですが、平成20年度に策定した「新城市民病院改革プラン」を元に、更なる経営改善に取り組めます。